

2016年度（第5期）

事業計画書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月31日

東京都千代田区神田錦町3-20 錦町トラッドスクエアビル5階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2016 年度事業計画

2016 年 3 月 2 日

公益財団法人 読売日本交響楽団

(1) 収益力向上へ 6 つのチャレンジ

2015 年度が会員数、収益ともに過去最高となり、極めて経営が順調であるだけに、攻めの姿勢で一層の経営改善を図りたい。

1、 東京芸術劇場で土日連続マチネー

東京芸術劇場の夜のメトロポリタンシリーズは長年にわたり、有料入場者率が低迷し、それだけ広告・宣伝にも費用がかかった。これを人気の高いマチネーに転換し、従来の日曜のマチネーと合わせて「土日連続マチネー」シリーズとして、集客増を図る。

2、 多摩地区で新シリーズ

現在、練習ホールとして使用している東京都多摩市の「パルテノン多摩」と事業提携し、共同主催による年 4 回のシリーズを 16 年度から開始する。多摩地区でファンを広げたい。

3、 会員券割引率の改善

読響の会員券の割引率はサントリー定期演奏会の S 席の場合 4 割強。今年度はこれを 4 割弱に圧縮した。大幅値上げとなったが、プログラムの内容の良さが評価されたこともあって、大きな反発は出ていない。

4、 学生会員券の新設

クラシック業界にとってファン層の高齢化は大きな課題。若年層に少しでもファンを広げるために格安の学生会員券を新設した。各シリーズ 30 席限定。

5、 英語版チケット販売サイト新設

外国人のチケット購入希望者には、これまで電話受付のみだったが、読響のホームページ英語版に 4 月からチケット販売コーナーを新設する。チケット業務委託先である「ぴあ」のシステムを活用し、自主公演すべて 24 時間 365 日いつでもウェブで購入できるようにする。日本在住の外国人や外国人観光客にチケット購入を促すとともに、不正クレジットカードの使用防止対策にも効果があると期待している。

6、 大阪定期はフェスティバルホールに進出

これまで大阪定期は老舗のシンフォニー・ホール（1704 席）で催してきたが、毎回完売している。このため、16 年度からは最も規模の大きいフェスティバルホール（2530 席）に進出し、集客増を図る。

(2) よみうり大手町ホール

よみうり大手町ホールでの「読響アンサンブル・シリーズ」は、15年度は全5公演とも完売だった。ホールの音響の良さが浸透しつつあることとともに、演奏家によるトーク解説も評価されている。16年度からは、他の自主公演シリーズと同様に年間会員券を設ける。読響常任指揮者のカンブルランによる小編成オーケストラでモーツァルトの交響曲40番を演奏するなど魅力あるプログラムをそろえた。来年度も全公演完売を目指す。

(3) 多士済々の指揮者、ソリスト

16年度の特徴は、指揮者・ソリスト陣の豪華さだろう。

指揮者では、将来有望なウクライナ出身のキリル・カラビッツ、14年秋の読響デビューで好評を博したコルネリウス・マイスターのほか、歌劇場たたき上げの本格派セバスティアン・ヴァイグレ、読響名誉指揮者の巨匠ゲンナジー・ロジェストヴェンスキーら注目される人材が目白押しだ。

ソリストもヴァイオリニストでは、12年ぶりの共演となる五嶋みどりやヴィクトリア・ムローヴァ、ピアノの鬼才イーヴォ・ポゴレリッチ、ベルリン・フィルの首席フルート奏者、エマニュエル・パユら多士済々で、日本のクラシック界にも大きな話題を呼びそうだ。

事業計画一覧

I. 自主公演（国内）	61回
1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. みなとみらいホリデー名曲シリーズ	8回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブルシリーズ	4回
8. 特別演奏会	6回
(内訳)	
首都圏特別	4回
地方特別	1回
第九公演	1回
II. 依頼公演	45回
1. 首都圏公演	32回
2. 地方公演	11回
3. テレビ出演	2回
I+II 小計	106回
III. その他公演	71回
1. ハートフルコンサート	8回
2. フレンドシップコンサート	7回
3. サロンコンサート	41回
4. その他アンサンブル公演	15回
I+II+III 合計	177回